

平成26年11月八戸市教育委員会定例会会議録

- 1 開催日時 平成26年11月28日(金) 午後1時30分
- 2 場 所 市庁本館3階 議会第2委員会室
- 3 委員氏名
- | | |
|----------|---------|
| 委員長 | 築 瀬 眞知雄 |
| 委員長職務代行者 | 大 庭 文 武 |
| 委員 | 岡 本 潤 子 |
| 委員 | 武 輪 節 子 |
| 教育長 | 伊 藤 博 章 |
- 4 職員氏名
- | | |
|--------------|---------|
| 教育部長 | 佐 藤 浩 志 |
| 教育部次長兼教育総務課長 | 澤 田 多嘉男 |
| 教育部次長 | 嶋 脇 郁 夫 |
| 図書館長兼市史編纂室長 | 藤 田 俊 雄 |
| 学校教育課長 | 齋 藤 信 哉 |
| 教育指導課長 | 正部家 光 彦 |
| 社会教育課長 | 田 中 勉 |
| 是川縄文館副館長 | 前 田 美智子 |
| 総合教育センター所長 | 木 村 一 夫 |
| 博物館副館長 | 小笠原 善 範 |
| 図書館副館長 | 千 葉 玲 子 |
| 教育総務課参事 | 尾 崎 雅 祥 |
| 学校教育課参事 | 茨 島 隆 |
| 東地区給食センター所長 | 中 里 親 弘 |
| 西地区給食センター所長 | 清 川 彦 一 |
| 博物館参事 | 古 里 淳 |
| 教育総務課主幹 | 松 橋 洋 |

(事務局員) 教育総務課主査 佐藤 正樹

築瀬委員長	ただいまから、平成 26 年 11 月の教育委員会定例会を開会いたします。 本日の議事録署名は武輪委員を指定いたします。 それでは教育長から、主な会議・行事等について説明をお願いいたします。
伊藤教育長	(資料に基づき説明)
築瀬委員長	ただいまの説明につきまして、ご質問などありましたらお願いいたします。 (質疑なし)
築瀬委員長	無いようですので、これより議事に入ります。本日提出されております議案を審議いたします。はじめに、議案第 46 号「八戸市公民館条例施行規則の一部を改正する規則の制定について」事務局からの説明をお願いします。
田中社会教育課長	(議案第 46 号「八戸市公民館条例施行規則の一部を改正する規則の制定について」に基づき説明)
築瀬委員長	ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問等がありましたらお願いします。 (質疑なし)
築瀬委員長	それでは、議案第 46 号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。 (異議なし)
築瀬委員長	ご異議がありませんので、議案第 46 号を原案のとおり決定いたします。
築瀬委員長	次に、議案第 47 号「通学区域の設定及び変更について」事務局からの説明をお願いします。
齋藤学校教育課長	(議案第 47 号「通学区域の設定及び変更について」)
築瀬委員長	ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問等がありましたらお願いします。
武輪委員	こちらの通学区域に関しては、審議会で審議いただいておりますので、内容について異論はないんですが、これはいつからという明記は特に必要ないものでし

	<p>ようか。もちろん、(仮称) 第二白山台小学校が設置されてからということでしょうが、今の現段階でこういうふうな決定をされて、将来はこのような形になりますということは、いつからというのは特にここで明記することは必要ないものでしょうか。</p>
<p>茨島学校教育課 学務GL</p>	<p>条例そのものには、期日はございませんので、認めていただければそこから学区が設定されまして、学区が具体的に設定されたのちに、学校の建設が終わりまして、開校日をもってその学区を運営することになると考えております。</p>
<p>武輪委員</p>	<p>分かりました。ありがとうございます。</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>後は無いようですので、議案第 47 号を原案どおり決定してよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>ご異議がありませんので、議案第 47 号を原案のとおり決定いたします。</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>以上で議案の審議は終わりました。</p> <p>次に報告事項に入りたいと思います。はじめに「マイブック推進事業のアンケート結果について」報告を受けることとします。</p>
<p>正部家教育指導課長</p>	<p>(資料「マイブック推進事業のアンケート結果について」に基づき説明)</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>ただいまの報告につきまして、ご質問などがありましたらお願いします。</p>
<p>大庭委員</p>	<p>この事業を今回のアンケート結果の集計を踏まえながら見ると、私は事業として一つの効果があったのではないかなというふうに思っております。4ページの成果及び課題のところにとまとめてあるわけですが、私が個人的にこの部分は今後対応として必要だ、あるいは継続することが必要だと思った点を何点かお話をさせていただきます。</p> <p>まず1ページの児童並びに保護者アンケートの中の質問4のところですが、アの使用期間を知らなかった、それからエの配付されたことを知らなかった。この部分はパーセントは低いんですが、やはり今後改善点として意識していかなければならない部分だろうと思います。ただ、イとウに関しては、ちょっと本人が失念したというところかと思っておりますけれども、これも含めまして、期間あるいは使用してもらうというところを事前にきちんと周知していくというこ</p>

とがやはり必要かなというふうに感じております。

それから、質問の5の①については、継続してほしいという希望が多いわけですが、その中のアのところですね。いつもは図書館から借りていたが、自分だけの本を買うことができ嬉しかった。私は、やはりここが子どもたちにとっては非常に大きい部分かなと思います。自分の本が、自分が選んだ本が手元にあるというのは、おそらく年をとって、例えばですけれども二十歳位になって、こんな本に興味を示していたんだ。じゃあ今の自分はどうなんだと。あるいは、何かそこに書き込みでもしていれば、小学生時代にこういうことを考えていたんだというふうなところで、今で終わるのではなくて今後その読書がどう生きていくのかということ考えた場合、自分だけの本を買うということの喜びといいますか、実感を持たせたことが、やはり一つ大きな効果かなというふうに思っております。

あと2ページ目の②の継続を希望するが要望ありのところ、アのところですね。これは確か書店さんの方からの要望とも重なっていると思うんですけども、どの本が該当しているのかどうか。その辺は確かに分かりにくいと思うんですけども、ですから、その辺は今後の改善策の一つのポイントになってくるのかなと思っておりました。

あとは同じ2ページの学校アンケートの質問4のところですけども、先ほど言ったように自分の本が持てた、あるいはこれが今後どのように活かされていくかということだけではなくて、質問4のイにあるように国語の時間に紹介し合った。決して強制的に何かをさせるのではなくて、自分が持ったものを紹介させて、他の人がそれについて気づいていく。その子どもの発表について気づいていく。あるいはエのように、紹介カードを使って掲示する。これだけでもいいと思うんです。そうすれば、あの子はこういう本を読んでこういうことを考えているんだと。お互いに気づきを生み出していくといえますか、やはりこういうことも一つの大きな効果だなというふうに考えています。

あと3ページ目の質問5のところですけども、そこでも効果があったと思っているのはアとイのところ。本について話す児童が増えた、あるいは保護者と一緒に書店に行く。これもやはりこの事業の一つの狙いでもあったなというふうに私は思っておりますので、この辺も継続されていけばいいなというふうに希望しております。

築瀬委員長

はい、ありがとうございます。今のことについては事務局から特にありますか。では後でまたお願いします。

では武輪委員お願いします。

武輪委員

私も今回のこのマイブック推進事業は、初年度にしては大変成功だったのでは

<p>佐々木（宏）教育指導課指導主事</p>	<p>ないかなというふうに感じております。そして、このような形でアンケートを集計して、丁寧に分析されて、次年度に向けて課題もはっきり見えておりますので、またさらに来年もいい形になるのではないかなというふうに期待しております。</p> <p>その中で私もいくつか大庭委員と違う点で、感想また意見等をお話しさせていただきたいと思います。1ページ目の質問4のオのその他のところで、少数意見だと思いますが、真ん中あたりに「夏休みに転入してきて使う機会がなかったから」という意見がありますが、こちらのことに関して具体的にお聞きしたいのと、配付期間というのがたぶんあったと思いますので、その期間後に転入されてきた場合には、どのような対応をしたのかということをお聞きしたいと思います。</p>
<p>佐々木（宏）教育指導課指導主事</p>	<p>転入生があった場合には夏休み中であろうとなかろうと、クーポン配付期間中は、保護者の方が学校教育課に手続きに来ますので、その手続きが終わったら教育指導課の方に来ていただいて、そこでお渡しするというふうに進めていたのですけれども、この夏休みに関しましては、ちょうどお盆期間中に手続きに来た際、そのところがうまくいなくて、こちらの方でも促したんですけれども期間を過ぎてしまっ使用ができなかったということで、ちょっとここはこちらの方の配慮が足りなかったと考えています。</p> <p>それから、9月1日以降の転入生につきましても、クーポンに転入生用ということを示して、各学校を通して、または直接来た保護者の方にお渡しするようにはしてあります。また、支所等で転入手続きした場合もこちらに来ることができませんので、まずは転入生があった場合は、学校から連絡をいただいてクーポンがあるかどうかの確認をした上で、無いという場合にはこちらから学校を通してクーポンをお送りするというようにしてあります。9月1日以降の転入生にもそのような形で配付してありますが、使われているかどうかについてはまだこちらの方に上がってきていないので、そこはまだ把握しておりません。</p>
<p>武輪委員</p>	<p>9月1日以降ということは、今これから12月に転入された方があれば、そのお子さんにはクーポンが渡されるということで理解してよろしいでしょうか。</p>
<p>佐々木（宏）教育指導課指導主事</p>	<p>12月末までということにしております。</p>
<p>武輪委員</p>	<p>分かりました。</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>いろいろと事務が錯綜して大変でしょうが、変な差別感が出ないようによろしくお願ひしたいと思います。</p>

武輪委員	<p>2ページ目の一番下のところに書いてあります、質問4のマイブッククーポンと税金の関係について社会科の授業で取り上げた。ここも大変面白いなと思ひまして、国語ではなくこの社会の授業で税金との関係で取り上げたというのも、大変興味深い一行でした。</p> <p>それと、おつりに関して少しお話させていただきますと、おつりが出るような形に使いやすいようにしてほしいという要望が保護者からもあつたり、書店さんの方からも少数ですがおつりが出るようにしてほしいとありますが、これに関してはあくまでも本の購入という限定されたものですので、例えば10円20円おつりが出たものが、また子どもの本のために使われるかというのは大変微妙なところですので、おつりに関しては共通商品券のように出すという方法ではなく考えていったほうが良いのではないかなと思っております。現在は500円のクーポンが4枚ですので、例えば500円3枚に100円5枚にするとか。作る方としては大変手間だったり、なくすということも考えると100円5枚というのもどうかとも思ひますが、おつりに関しては共通商品券とか他の商品券とは違って限定されたものを購入するという考えで、おつりはなしという方向でいったほうがいいのかと思ひます。</p> <p>あと、もう一度2ページに戻りますが、学校図書館の本を充実させてほしいとあります。これはまたクーポンのことは違うんですけども、この学校図書館の本は、私の認識でいきますと中学校は大変充実しているように保護者としては見えるんです。というのは、月毎に新刊図書という形で図書委員会や学校からお知らせがあつて、こういう本も新しく学校に入ったんだということがよく見えるんですが、小学校は割とその図書に関する部分がなかなか増えていないように見えますけれども、学校図書館の図書費について少しお話をお聞きしたいと思ひます。</p>
正部家教育指導課長	<p>図書の購入費につきましては、子どもの数だったり学級の数だったり蔵書の数によって、年度当初にこれこれの額でということで配分してございまして、校長先生にもできれば夏休みが終わるあたりまで、8月9月までには新しい本を購入して図書館の方へというお願いをしております。ただ中には、なかなか使用が遅れがちな学校もございましてけれども、それ相応の金額は学校図書館の充実ということで配分してございまして、具体的な金額とかはよろしいですか。</p>
築瀬委員長	<p>後で詳しく資料なりをいただければと思ひますが、よろしいですか。</p>
武輪委員	<p>はい。</p>
岡本委員	<p>新しい事業が始まるということは、事前にもいろいろ担当課で吟味しながら進</p>

められていることもこの定例会の場面でお聞きすることができまして、事後に関しましても大変丁寧なアンケート調査を実施することによって、アンケートといえますと様々な意見が抽出されるわけですが、これを是非利用していただきまして、是非次回もいいものにといいふうに思っております。

皆様方から出たお話と重複しますが、私にとってとても嬉しかったことは、3ページ目の質問5のイのところの解答数が51%だったということが、大変嬉しく思っております。本がなぜいいかということは、ここにいらっしゃるお一人お一人がお分りのとおりに、やはり本を読むことでその登場人物に心を重ねることができるということで、様々な人の思いを自分に重ねることができるということが、小さいころからの心を育てるとよく言いますが、そういうことで大変いいものだということをご理解いただいていると思っておりますし、私自身もそう思っております。ただ本を読むという行為だけではなくて、親と一緒にやったということが嬉しい、楽しいと思える。本そのものではないんですけれども、そういうことが同時に得られたということは、大変良かったなと思っております。それも教員がそういう姿をきちんと捉えることができた。これは学校アンケートですので、先生方が子どもたちの様子の変化を見取っているものだと思うんですけども、こういうところまで教員がしっかり見ることができているということは、大変良かったなというふうに思っております。

次回のことにつきましては、またこの場でいろいろと出るとは思うのですが、このアンケートを活かしながら、子どもたちの心がこういうふうになっていけばいいなというふうに願っております。

築瀬委員長

はい、ありがとうございます。3人の委員さんからは、積極的な方向でというふうなご意見のように伺いました。

私も一言ですが、以前から3回ほど定例会でこのことについて発言しているんですけども、やはりこのアンケートについても無理のない範囲でぱっとまとめているのは素晴らしいと思いました。やることはいいんですけども、必ずその後アンケートがあるから教員の仕事が増えるという悪循環がやはり気掛かりなので、こういった簡単に焦点化してやるというのはとてもいいなと思いました。負担感もなかったのではないかなと思います。あとは学校の解答の中に紹介カードを書かせたというのはあったのですが、読書感想文を書かせたというのはなくて良かったなと思っております。子どもたちが自由に本を読んだ様子が伺えて良かったなと思います。

最後ですが、これは以前から意見を述べていますし、書店からの意見にもあるんですが、市教委から推薦図書という形で出すのは、参考といっても受け取る方はやはり市教委の推薦図書なんだというところに目が行きますので、何らかの形で工夫していただきたいというのが希望です。その際に、これはやって

	<p>いると思うんですが、市立図書館と連携をしてそちらの方の意見を伺うとか、学校図書館もそうですが分類がありますのでそういった分類で示すとか、そういったこともこれから考えることが必要かなと思いました。</p> <p>いずれにしても事務局の皆さん、ご苦勞様でした。成果があつて良かったなと思つています。ありがとうございました。</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>それでは、次に移りたいと思つています。次に、「自動車破損事故に係る損害賠償額の専決処分について」報告を受けることとします。</p>
<p>前田是川繩文館副館長</p>	<p>(資料「自動車破損事故に係る損害賠償額の専決処分について」に基づき説明)</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>ただいまの報告につきまして、ご質問などがありましたらお願いします。</p> <p>(質疑なし)</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>それでは無いようですので、その他事務局から報告事項はありますか。</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>無いようですので、「土曜授業について」に移りたいと思つています。</p> <p>このことについては、9月の八戸市議会の質問に関わつて、土曜授業を導入するかどうかは11月の教育委員会定例会でオープンに話し合い結論を導きたいということで答弁がなされています。そこで本日の定例会で各委員の意見を頂戴して一定の結論の方向を導き出していきたいなと思つていますので、よろしく願ひいたします。</p> <p>それでは、資料が出ておりますので、資料について嶋脇次長から説明をお願いいたします。</p>
<p>嶋脇次長</p>	<p>(資料に基づき説明)</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>今次長から話がありましたように、資料の提示も私たちは受けておりますし、これについての教育委員としての研修会も行つております。それを踏まえた上で、今日の定例会を迎えております。それでは委員の方々から自分の考えを述べていただきたいと思つています。では、武輪委員からどうでしょうか。</p>
<p>武輪委員</p>	<p>それでは、保護者の立場でこの土曜授業についてお話をさせていただきます。まず、この土曜授業ということに関して、私も含めまして、保護者としてこの土曜日の教育活動についてということをよく把握していない、理解していない保護者</p>

が多いのではないかなというふうに実感しております。提示された参考資料の中に土曜日の教育活動についてということで、①番が土曜授業、②番に土曜の課外授業、③番に土曜学習というふうにあります。土曜授業というものは児童生徒の代休日を設けずに、土曜日を使って教育課程内の学校教育活動を行うことというふうにあります。これに関して、保護者として非常に混同しているといえますか、児童生徒は代休日を設けず、しかしながら先生方はどこかで振替をしなければいけないとか、様々なことに関して非常に難しいというか、理解ができていない保護者も大変多いと思います。私自身もこの土曜授業というお話があったときに、この大きく3つあるということはこの資料をいただいて理解したということになります。

それを踏まえて、まず結論から申し上げますと、私自身この土曜授業に関して、八戸市としては現段階では土曜授業を行うことはしなくてもよいのではないかなというふうに思います。

そういう結論から次に私の保護者としてのお話をさせていただきますと、授業時数が十分確保されているとありますが、学期末や年度末に教科書が終わらずに詰め込みになったりというふうなお話も多々聞くことがありますし、実際ゆとり教育から授業内容が増えて、いろいろな形で土曜日にも授業があったら、子どもたちがもっと段階を踏まえて十分に理解できるのではないかなと思ったことも実際あります。土曜授業があったらいいのではないかなというふうに思ったこともあります。

ただ実際、部活であったり、先ほど小学校長会から提示された八戸市内で行われている諸活動に関しても、地域で公民館や子ども会、様々な団体等で土曜、日曜に親子のため、また子どものための活動というふうにも行われておりますし、その中で学ぶこと、また部活動の中で色々学ぶことも多くあって、授業だけではなく子どもの豊かな心を育むという面において、八戸市では今いい形で進んでいるのではないかなというふうにも考えております。ただ、地域差があるのも実情ではないかなと思います。ここの地域ではそういう子ども会が大変盛んで、昔ながらの形で行われているという地域もありますが、実際子ども会というものが成り立たずに、子ども会でいろいろな企画をしても子どもが集まらない。子ども会の中でいろんなスポーツ行事を行おうとしても子どもが集まらないというのも実態ではないかなと思います。その子どもが集まらないというのは、少子化でということではなく、個々の行事に参加をしないという意味ですが、そういうことでもありますので地域差はかなりあると思いますが、このような形で多く行われているというのも事実ですし、その中で子どもたちが育まれているということも実感しております。

最初に申し上げましたように、いろいろな形でトータル的に見ますと、現段階では八戸市は学力も全国平均よりも上回っているということですし、土曜授業は

	<p>現段階では行わなくてもよいのではないかというふうに考えております。</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>はい。また後で補足があればお話ししていただければと思います。それでは次に岡本委員はどうでしょうか。</p>
<p>岡本委員</p>	<p>私は一番最初にこの土曜授業について、なぜこのことが上がっているのかということをもう一度見直してみますと、豊かな教育環境づくりということが出てくるんですけども、これまで以上に豊かな教育環境を提供するということが趣旨になっているわけですし、私たちは豊かな教育環境それについて考えなければいけないのではないかなというふうに思っております。教育といっても非常に幅が広く、この教育委員会で扱っている教育内容についても多岐に渡っておりますし、社会教育から学校教育、様々な教育の視点でこの豊かな教育環境ということを考えるべきであろうというふうに私なりに考えております。</p> <p>八戸市におけるこの教育ということに関しましては、私も委員になりましてからずっとここで総合的に定例会を通して、また様々な事業に参加したり学校訪問等を通じて、一人の市民としてこの教育について見て参りましたけれども、八戸市の教育がこれまで以上に豊かな教育環境になるためには、どうあるべきかということを中心に私なりに考えてみました。そうしますと、今子どもに大変必要なことは何であるかということ、やはり私は自分で自分の時間の使い方を考える時間というのが、非常に大事ではないかなと思います。今はとにかく大人が用意をし過ぎておまして、その中に子どもが生きていて、子どもの時間も保障されていないこの時代にあって、大人時間ですべてが動いているこの社会にあって、子どもが子どもらしく本当に生きるという時間をもう少し保障してあげることが、より豊かな教育環境を作っていくのではないかなというふうに私は考えております。あまりにも大人が準備し過ぎますと、今度は自分の力で、現代の社会人ということになっていきますけれども、大学やそれぞれ教育の最後のあたりがどういうことになっているかということも、皆さんいろいろお聞きになってはいると思うんですけれども、やはり小さいころが大事でして、何もない時間をどう使うかということを保証できる八戸市でありたいなというふうに私なりに考えております。</p> <p>それが土曜授業にイコールになるかということになりますけれども、授業として教育委員会がそれぞれの学校が用意することが、果たしてそれで適当なのかということについては私自身疑問がありまして、ある一方では地域密着ということで大変これは全国的にも先駆けてやられてきた実績もありますし、また地域の方々のこれまでのご尽力も大変なものだというふうに思っておりますし、それがまず上手く機能しているか機能していないかは、それぞれの地域によって差はあるものの、八戸市全体としてこれにかかっているという事実も片方にございます。総合すると、八戸市の教育がどうあるべきかということ考えたときには、</p>

	<p>今土曜授業をするかしないかというふうに問われますと、私としては必要性を感じてはおりませんし、子どもたちにとってもっと他に何かないかなということ、完璧だということはおしえておりませんが、そこを考えていくべきではないかなというふうに思っております。その授業をする・しないというのを問われれば、しなくてもそれはいいのではないかなというふうに考えております。</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>はい。ありがとうございました。大庭委員はいかがですか。</p>
<p>大庭委員</p>	<p>お二人の委員の方と内容的に重なる部分もありますけれども、私が基本的に考えているのは、結論から言いますと、土曜授業については導入しなくていいと考えております。</p> <p>その理由としては、八戸では今、地域密着型教育ということであること、地域と関わりながら子どもが成長していく、そういう環境を整えようということ、で取組をしております。この土曜授業で、私が最初ちょっと不安だったのは、保護者のアンケートの中で気になっていましたのが、土曜授業イコール平常の授業、いわゆる教科の授業を行うと捉えている方もいるのではないかなということ、です。ここでいう土曜授業というのは、必ずしも教科の時間数を増やすということではなくて、先ほどあったように、いかに子どもたちの環境を整えていくか。授業の実施だけではなくて、そういうふうなことで捉えていますので、そうすると今八戸市で行っている地域密着型教育の中で、いろいろと改善は必要ですが、子どもたちの環境を整えながら、そういう状況の中で子どもたちを育てていくという形で土曜を使ってもいいのではないかと考えているところです。</p> <p>具体的に言いますと、例えば資料にもありますけれども、全国と比較した場合に、土曜日の活用の仕方というところについて、私が目が行きましたのは、小学校では2番のところ、習い事やスポーツ、地域の活動に参加している。これが全国の数字と比べますと、かなり大きくなっており、それから6番の友達と遊ぶということについても、八戸市の方が数字としては大きくなっており、一方、土曜日にテレビとかゲーム等で遊んでいるという割合が八戸市は低くなっており、それから中学校でいいますと、1番の部活動が81.9%で圧倒的に多くなっており、これは全国比でも非常に多くなっているということが分かるかと思っております。一方、中学生の場合もテレビとかゲームで遊んでいるという時間数は全国比では少なくなっています。というふうなところも含めて考えますと、必ずしも八戸市の子どもたちは、指摘されているように土曜日を有意義に過ごせていないのではないかと私は考えております。話が戻りますが、今土曜授業を取り入れなくてもいいのではないかなという理由は、今述べたことがまず1点目です。</p> <p>もう一つあります。2点目に入りますけれども、では土曜授業を行った場合、</p>

教科の授業もできるわけですので、その時間数が増えて学力の向上に繋がるのではないかということについて、ちょっと述べたいと思います。いただいた資料では、学力検査の調査等から小学校・中学校とも全国あるいは県の平均を上回っているということです。そして、私の体験として、学校訪問させていただいたときに授業参観をさせていただくわけですが、そのときもグループでの活動の中で個々の意見を取り上げながら、生徒同士がいろいろ話し合いながら授業を進めていくという場面を何度も見ました。指導する先生方も昔のような一方的な授業ではなくて、そういう個々の生徒の意見あるいはグループの意見を上手く取り上げながら、一人ひとりを大事にして授業展開をされているというふうに私は感じております。そういうふうなことで、知識量を豊かにするとか、そういう意味での学力的なことについては、今の指導を通しながら一人ひとりを大事にしていて、必ずしも全国平均から落ちているわけではありませぬので、そういう形で授業等を展開していただければ、改めて土曜日を設定して授業の時間数を増やすというところまでは必要ないのではないかと思います。しかも、いろんな学力テストの調査結果等も分析されておりますので、あとは分析結果をどう改善に繋げていくかというところで、学力的な部分はカバーしていけるのではないかと思います。

それからもう一つ、授業時数についても確保されていると資料の中で示されておりますので、そのことも合わせて考えますと、学力の向上ということを考えた場合でも、必ずしも土曜日の授業を取り入れて時間数を確保するというところまでいなくても、現状の中でいろんなデータを上手く改善に繋げていけば、それは可能だろうというふうに私は考えています。

以上、大きなところ2点が基本的な考え方ですけれども、私もずっと高校生に関わりながら、こういった子どもたちを育てていくのに大事なのは、やはり「なぜ力」「とは力」、これをいかにつけるか。そして自分自身で自分自身を高めていく、自己教育力という言い方をしていますけれども、自分で自分を高めながら、そして自分を変容させていく。おそらくそういう力をつけることが、今求められているんだと思います。こういう変化の激しい時代ですので、ある変化の前で、ある壁の前で立ち止まるのではなくて、そこを越えていくにはやはり自己教育力のところに戻ってくると思うんです。それをどうつけていくのか。小・中の場合には、やはりそういう癖をつけていくこともやはり必要だろうと思っています。それは決して知識量を増やすことだけではないというところに返っていくわけですが、おそらく八戸市で言っている「わかった！できた！身についた」これもおそらくそこに私はあると思っています。「なぜ力」「とは力」をつけながら自分で自分の力を高めていくと。そこに私はあるんだと思っていますので、あえて土曜日の授業で知識的な量を増やそうというところは、私は必要ないのではないかと。むしろ、いろんな人と関わる中で、人間力というか、人と人との

繋がりを大事にして、自分の将来をきちんと選択していける、実現していける。そういう子どもたちを育てることが必要だと考えております。

蛇足ですけども、おそらく大学入試のセンター試験。あのマークシートの択一式、あるいは知識量を測るようなもの。あるいは、与えられたものから選ぶと。おそらくあの入試形式は、今後変わっていくだろうと思います。そういう動きもあるようですので、おそらくこれから重視されていくのは、大学入試だけではなくて社会人になってもそうなんですけれども、やはり体験的なものも踏まえて自分で考え、それを自分でどう取り込んでいくか。どう将来に繋げていくか。その力だと思っんです。おそらく大学入試でもそう。個々の体験などを踏まえて、どう自分が考えているのか。その部分が問われていくようになると思います。そういうふうなことも含めて、土曜授業は行わなくてもいいと思います。

最後に一つだけ。この資料の中学校長会の最後のところで、微妙な表現ですが「反対ではない」として、「主催が地域や NPO の職員が関わらない土曜学習なら賛成」とあります。この辺に絡むんですけど、私は土曜授業という形ではなくても、小学校は無理かと思いますが中学生くらいになると、例えば土曜日は月に1回くらいでも、教室、学校を開放するから自分たちで勉強をする場にしてください。そこには先生も、いわゆる地域の方や保護者も関わらないで、子どもたちでいわゆる自分たちの学習会といいますかね。分かるものがあれば教える。分からないものは自由に質問する。そこでお互いにいわゆる学び合いといいますか、お互いにやっていく。そういう形として土曜日を使う。そういうふうなことも、中学校の場合では考えてもいいのかなと。ただその場合でも、学校開放するので安全面の問題は出てくると思います。どう生徒の安全を確保するのかとか、もし何かあった場合というのはどうしても考えますので、そういうふうな問題は出てくると思いますけれども、高校生なんかであれば、そういうふうに関放すれば来て自由にやって、段々にリーダーができてくるんです。自信のある教科については同じ生徒に教える。そういうことを交互にやっていく。あくまでも理想です。そういうふうなことも展開できるような学習形態を作っていければいいのかなというのが一つ希望としてはあります。

築瀬委員長

3人の委員の意見は、内容的にはニュアンスが違おうとしても、3人とも土曜授業を行う必要はないということでした。それぞれ武輪委員からは、豊かな心を育むということが強調されておりました。ただ、保護者ではまだ混同している部分があるということが述べられています。また、岡本委員からは、大人が準備し過ぎであり、いわゆる自分で決定していくという方向を考えていくべきだと。豊かな環境を提供するという事です。大庭委員からは、いろんな調査の結果から八戸の状態はいいということで、土曜授業を導入する必要はないということでありました。

一応、私からもお話をしたいと思います。私も土曜授業の実施は必要ないと思います。私はもう少し強く言えば、実施すべきではないという考えです。

その理由は、土曜日の過ごし方については、資料で丁寧に説明されているように、有効に活用しているということが事実であります。土曜日、日曜日の諸活動一覧表。よくこんなに小学校長会でまとめたなと思って、感心して見ていました。非常によく活動が行われているなと思います。ですから、中央とか周囲の流れに惑わされることなく、八戸市で実践している小中ジョイントスクール推進事業とか地域密着型教育推進事業。こういったものは素晴らしい取組なわけですから、自信と誇りを持ってそれを力強く推進していくということが大事ではないかなと思っています。

それから文科省の資料にもあるんですが、地域の人材を活用するには土曜日がいいんだと。これはそうですよね。ただし、土曜日を活用して平日の授業時間数を削減することができるかとあるんですね。その浮いた分、平日ゆっくりしていいんだよとあるんですが、実際はどうなんでしょうか。私は学校現場の経験上、時間が空けば必ずそこに会議や研修が入り、個別指導や補充指導が入る。ますます息苦しくなる可能性が大きくなるということも懸念しています。土曜授業ではそういった体験的な学習授業が行われることが主として盛られているんですけども、実際にはそうではない部分も出てくるだろうと思います。そういったことによって、子どもの豊かな成長が阻害される懸念がある。これが2つ目です。

3つ目は最後ですけども、やはり子どもに対して教員が心身ともに健康で元気で向かわないと、豊かな子どもの成長はないと思います。ですから、先生方が疲弊することは避けたい。この土曜授業を実施すれば、先生方の負担は確実に多くなる。これは全国的な調査でも、先生方の反対は7割から8割で、逆に保護者は6割7割が賛成ということの結果にも表れているんですが。あと、児童生徒の振替はないということで、そうすると小学校高学年や中学生になればどう思うのでしょうか。先生方は休んで、俺たちは休まないのかと。例えば、そう思うことがあったとすれば、それはストレスになるんじゃないかなと。先ほど冒頭の挨拶で言いましたが、ストレスにも繋がるだろうなと思ひまして、そういった部分での不満やストレスの蓄積が子どもたちの成長を阻害するということも考えられます。

はっきり言って、私にはこれが子どもたちの改革なのかという疑問が根底にあります。小手先だけで、土曜授業はどうかではなくて、その底にあるものは何なのか。そこをもう少しこれから考えていく必要があると思います。今日は結論を出しますが、その根底にあるものは何なのか。では、そこに向かって八戸市教育委員会はどう対処していくのか。そういったこともこれから必要になると思います。

本当に最後になりますが、学校現場の声を大事にして、教員も子どももみんな

	<p>元気で、八戸市の教育が進むことを祈っています。</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>ここで何か補足はありますか。</p>
<p>大庭委員</p>	<p>先ほど私が最後に理想として付け加えたこと、ちょっと誤解されればまずいなと思ったので補足します。あくまでも先ほど最後に理想として話したのは、土曜授業という意味では全くありません。土曜日の活用という大きな範囲の中で、そういうふうなことも考えられるのではないかと。しかもそれはあくまでも、市教委として一斉にというような意味合いでは全くなくて、各学校の中でそういうふうなことが可能であればそういう方法もあるかなということでお話しましたので、土曜授業という中での捉え方ではありません。</p>
<p>齋藤学校教育課長</p>	<p>今、各委員さんからお話が出た部分で、管理規則に関わる部分がありましたので、補足してもいいでしょうか。</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>はい、どうぞ。</p>
<p>齋藤学校教育課長</p>	<p>まず、先ほど武輪委員さんから授業時数の確保ということでお話があったんですが、これは八戸に限らず全国 365 日という決まった日数でもって授業時数を確保していくわけですけど、なぜ八戸が確保できているか。ここは、今の学習指導要領が施行される以前に、それを見込んで夏休み、冬休み、年度末の休業日を短縮しているんです。だから他の市町村に比べると、八戸の子どもたちは、夏休み、冬休みが若干短い。そういった部分が授業時数の確保に繋がっています。またさらに、管理規則を改正して、長期休業中も申請によって認められれば、それが授業時数として認められるといった部分の手直しをしています。どういうことかということ、例えば中学校あたりは夏休みを通じて学習会をやっています。その学習会のやり方、内容によっては授業日として、授業として認めますよと。これは様々な条件があるんですけども、認められればそれが授業日として加算されていく。そういった方法もとっています。まずそれが1点です。</p> <p>それから振替の話が出ましたけれども、これは今、学校の方では、地域の人材や保護者がとにかく学校の運営に参加しやすいようにということで、土曜日、日曜日、休みの日に参加するために振替授業の届けというものを出していただいています。これによって、土曜日、日曜日を授業日として設定して、その代わりとして子どもたち、それから先生方は振替の日を設けているというようなやり方をしています。これによって保護者の方は仕事が休みの日に学校に行くと、様々な部分で子どもたちと一緒にやれる。そういった環境を整えています。</p> <p>それから3つ目は、教師の振替という部分で、これは労働基準法で定められて</p>

いるわけですが、規則上は前4週後8週のうちで取りなさいとされています。これが基本です。ただ、県では特例があって、それで取れない場合には長期休業中に取りなさいといった部分があるんです。先生方はどちらかというと、長期休業中に取りなさいという方向を目指すわけですが、これは築瀬委員長さんからもあったように、子どもたちが出れば先生方はやはり出なければいけないという状況があるということです。よって、夏休み、冬休みを使って振替を取るということがありますが、現実にはなかなかそれが取れない。そういう状況があるということです。よって、先ほど築瀬委員長さんが心配したように、子どもたちは何で先生方は休んでといった部分は、現状からしてはなかなかないだろうというふうに考えます。ただいずれにしても、そういうことをやれば、子どもたち、それから先生方はどんどん疲弊していく可能性もないわけではないということです。

管理規則に関わって、この3点を補足させていただきます。

築瀬委員長

ありがとうございます。実際に今課長さんからお話があったように、八戸では上手く学校で活用しながら振替をしたり届け出をしたりして、上手くいっているというふうにニュアンスとしては受け取りました。また、特例なんかもありますし、後16週で振り返るというふうなことも全国的にはできるわけなので、そういったことはできるのですが、いくら延ばしても取れないものは取れないという現実もあるということが話されています。

それではここで、4人の考えは一致して必要ないということで聞いたんですが、事務局を統括している、あるいは指揮監督している立場の教育長からも意見を伺いたいと思います。

伊藤教育長

大変充実した話し合いで感激をいたしました。私は個人的に前々から考えがあるわけですが、最前線という言葉が適切かどうかは別にして、やはり教育現場の最前線を預かっている校長、あるいは先生方、あるいは保護者の意見を謙虚に聞いて、その上で教育委員会で率直に忌憚のない意見を交換して、最終的に八戸のあるべき方向を見出すべきだと考えてきたんです。したがって、先般の9月議会でも少し話題になりましたけれども、そこでは私の個人的な見解は申し上げませんでした。

私も、ご存じのように、昨年3月まで中学校現場の校長として職員や子どもたちの指揮にあたってきたわけです。正直に言いますと、先生方も子どもたちも疲れている。もっと言いますと、誤解を招く恐れがありますが、先生方はやや疲弊しているというのが現実なんです。次から次へと教育課題が矢継ぎ早にくる。一つの物事がまだ出来上がる前に新たなものが提示される。そして行政でもそういった文書なり通知を出す。この平日の忙しさをそのままにしておいて、土曜授

業だけをやるということが本当に教育としていいことなのかというふうにと考えると、私はこれは土曜授業に限らない。いつも現場にいたときはお話をしていたんですが、「やらされる仕事で実りのある仕事はないよ」と職員に言ってきました。同じように、例えば今教育委員会や行政が、現場の現状や声を無視して、謙虚に耳を傾けずに行政主導で土曜授業をやりましようと言ったときに、本当にその文科省が狙っている土曜授業の趣旨が活かされるだろうか考えると、これは長い30年来の現場の経験から言えば、文科省が狙っているような成果は出ない。やらされているだけ。それよりであれば、この文科省の趣旨と地域密着型教育の趣旨というのはほとんど一致しているんですね。

脱線しますが、実はつい3週間くらい前に教育長室に「内外教育」でインタビューに来たんです。2時間ばかり対応いたしました。そのときに、「八戸でやっている地域密着型教育というのは何ですか」という話が出たんです。それは12月9日の内外教育に掲載されて出るというのが数日前に連絡がきましたけれども。したがって、平成20年からですか。私の第一中学校とまさに築瀬委員長さんの柏崎小学校の2校がモデル校としてスタートしたんですね。そして、昨年度から市内72校全校が地域密着型教育に取り組んだ矢先なんです。実はこの地域密着型教育も、私なりに軌道に乗せるのに2年以上かかっているんですね。つまり、地域あつての学校という意識は、校長は地域にときどき赴きます。会合に呼ばれます。強く思っているんです。地域の理解があつて、地域住民の信頼があつて学校があるんだという思いを持っているんですが、一般の先生方というのは地域に出向くということはほとんどないんです。だから、学校というのはある意味で特殊な世界なんですね。そういうことでは、今の子育てとか教育というのはなかなか難しい。そういう意味で、この地域密着型教育の大きな狙いというのは、もう皆さんご承知のように、子どもたちに確かな学びと豊かな育ちを提供する。学校、家庭、地域が連携協力して協働で学校運営をしましようというのが、この地域密着型教育の趣旨なんです。そういうことを考えますと、文科省が今提案している土曜授業というの、結論的に言うと同じことなんです。

ただ、この文科省で提案している土曜授業というのは、次長から資料が渡りましたとおり、大きく分けて3種類あるんです。その土曜授業というところだけが一人歩きして、これは説明不足の点もあるし、なかなか難しい説明なんですね。土曜授業というと、なんか英語とか数学とかをやってくれる。土曜授業イコール学力アップなんだというように取り違えている方が多いんですが、文科省が望んでいるのも、単なる座学の授業だけではないんですね。芸術とかスポーツとか、トータルな部分を言っているんです。要するに、さっき岡本委員さんが言いましたけれども、土曜日の教育環境を豊かなものにする。その一つの方策として、土曜授業というのを打ち出しているんです。でもやはりこれは、岡本委員さんがお話になったように、豊かな教育環境というのは本当に土曜授業でしか得られない

	<p>ものだろうか考えると、そしてこれはやはり委員さん方が触れたように、先生方は労働基準の問題があつて長期休業中に振替を与える。でも子どもには振替を与えない。そんなに毎週やるわけではなく月1回にしても、子どもから考えると何か割が合わない。もともと5日制がスタートとしたときの趣旨は、子どもたちを学校から地域家庭に帰そうという趣旨なんです。そういうことがいつの間にか忘れ去られて、学力云々というところだけが焦点化されて、土曜授業もやりやすいような環境を整えようというふうになっていったわけです。八戸では、先ほどからありましたように、やはり地域密着型教育を充実させて、子どもたちの豊かな心、それから確かな学力。そういうものをこれまで以上に意識して育てていく、育てていく。そういうことが大事だろうと思います。</p> <p>したがって、結論を申し上げますと、事務局を預かっている教育長としても、今の土曜授業というのは実施しないという方向で考えております。</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>はい、ありがとうございました。教育委員でもある教育長からも意見を伺いました。現場の状況を考えて、土曜授業の導入は必要ない。むしろ、地域密着型教育を推進していくということに力を入れたいということであったと思います。</p> <p>ただ、先ほど武輪委員さんからもあつたように、保護者の方が十分にこの意味を理解されているとは言い難いという点があるので、やはりこれからは事務局の方でも理解を深めるような努力は、この土曜授業だけではないんですけれども、保護者への理解を深める努力はこれからも必要かと思ひます。それを付け足しておきたいと思ひます。</p> <p>それでは全員一致していますので、八戸市教育委員会としては土曜授業は実施しないということによろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>異議がないようですので、土曜授業は本市において、実施しないということに決定いたします。</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>それでは最後にその他ですが、委員の皆様方から何かございますか。</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>それでは、長時間大変ありがとうございました。一定の結論も導き出されました。これを持ちまして、平成26年11月の教育委員会定例会を終了いたします。お疲れ様でした。</p> <p style="text-align: right;">(午後2時56分終了)</p>